

表紙裏（新しき世界へ 1968 年 1 月号）

愛するということ

桜沢如一

愛するということは自分が 100 パーセント相手のものであるという自覚で、つまり自分の抹殺だ。愛されるということなのだ。毎日毎日より強く、より深く、より多くの人から愛されていくことだ。自分がどれ程強い愛情をもっているかということは、自分がどれほど愛され慕われているかということで測定できる。何を見ても誰を見てもすぐ好きになり大好きになってしまうのでなかったら愛情を本当に持っていないのだ。

君が全身全力で愛しているように愛されなかったら、君の愛は実は所有慾なのだ。

この世の中で如何なるものでも、人でも、嫌いなものがあつたら、その人は決して幸せにも自由にもなれない。まして悪口、蔭口、蔭口放送、憎しみ、妬み、のろい、うらみを少しでも持つ人はもう駄目だ。そんな人は排他性のかたまりで、破壊しかできない。

しかし、こんな簡単なことが仲々分らない。それはいくら教えたって駄目だ。自然とそんな生活しかできないように生みつけられ、育てられなくてはならない。それは自らそんな生活をして見せる親、兄弟がなくてはならない。それは実に稀なことだ。

しかし、ひもじさと寒さ、苦しさはひとりでにそれを教えてくれる。

（昭和 42 年桜沢如一「世界無銭武者旅行」より）

本文の複写、複製、転載、その他いかなる方法による使用の際には日本 CI 協会にご相談ください